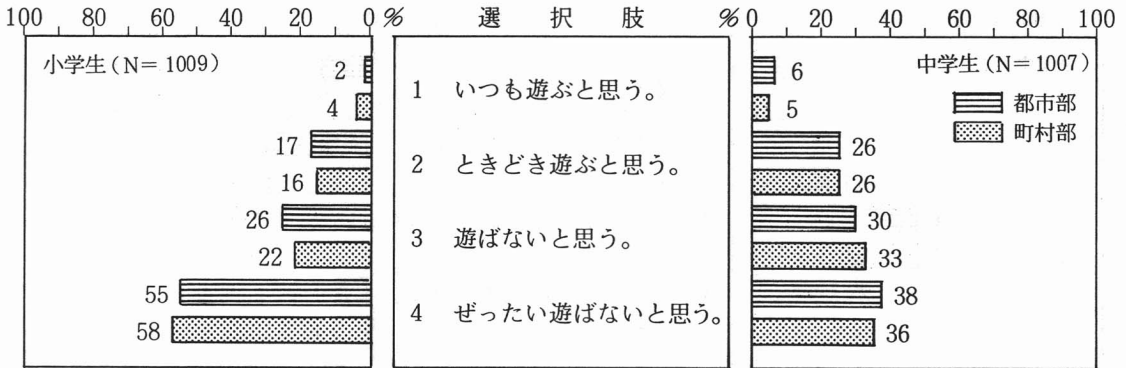


耐性特性〔自己統制力（自律心）〕 家庭生活の場面

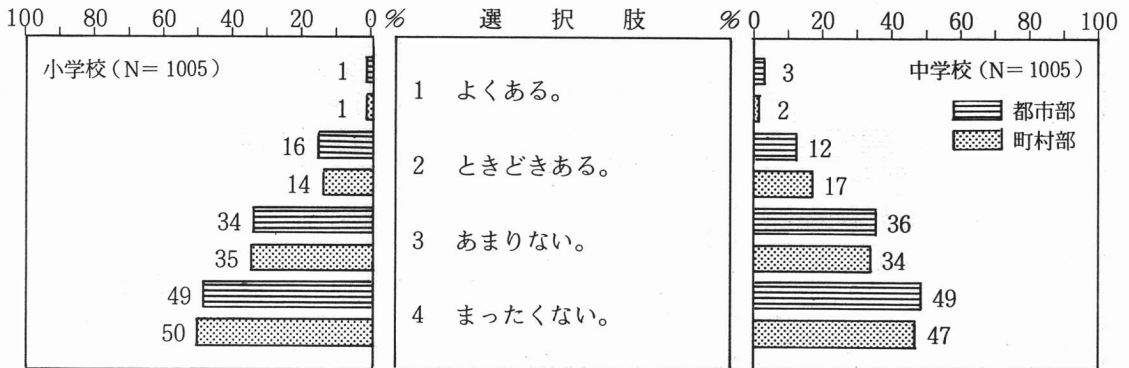
〔児童生徒〕

問い 「ここで遊んではいけません。」と立てふだがあるのに遊んでいる人がいます。友達に「遊ぼう。」とさそわれたら、あなたはどうしますか。



〔保護者〕

問い あなたのお子さんは、地域や学校で禁止している場所へ行ったり、そこで遊んだりすることがありますか。



調査対象者への設問の違いはあるが、家庭場面における児童生徒・保護者と学校場面における児童生徒・教師の回答は、反対の傾向を示している。

家庭場面においては、選択肢3、4を合わせると、小学生約80%、中学生約70%、保護者もまた約80%が、禁止場所への立ち入りやそこでの遊びが、「あまりない」としている。これは望ましいことではあるが、児童生徒への設問の場合、現実に遊んでいるかどうかでなく、「どう思うか」という選択肢なので、予想以上に選択肢4に集中したのであろう。実際の行動を調査すれば、もう少し

選択肢2の割合が大きくなるものと思われる。また、中学生は、選択肢1、2を合計すると、小学生より約10%多くなっており、規範に対する意識の違いなどから、よくないことでも誘われると断わりきれずに、行動を共にしてしまうという傾向がうかがわれる。

保護者への設問は、児童生徒の場合とは異なり、現実の子供の姿を聞いたものである。「ときどきある」が多くなるだろうと予想していたが、回答が選択肢3、4に集中したということは、子供の考えとその実際の行動をみている親との間には、